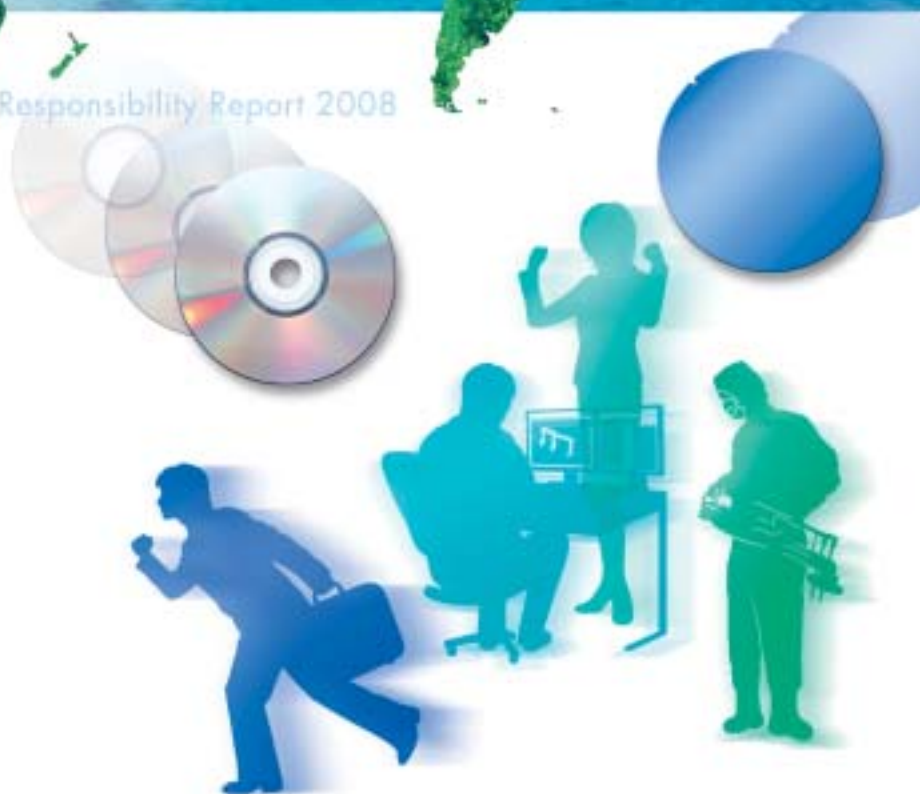




Shibaura Mechatronics Group
Corporate Social Responsibility Report 2008

芝浦メカトロニクスグループ
CSR報告書
2008



CSR報告書 2008 目次

芝浦メカトロニクスグループの概要・経済性報告	02
会社概要・事業基軸	03
製品紹介	05
トップメッセージ	07
目標と実績	09
マネジメント体制	11
社会性報告	
お客様とのかかわり	13
特集 中国でのビジネスと地域社会とのかかわり	15
調達取引先とのかかわり	17
株主・投資家の皆さまとのかかわり	18
従業員とのかかわり	19
特集 一流のモノづくりをめざして	23
地域社会とのかかわり	24
環境報告	
環境基本方針	25
環境経営	26
環境目標と実績	27
特集 環境調和型製品の事例	29
事業活動での環境への取組み	30
環境改善への取組み	32
第三者意見	34

編集にあたって

本報告書は、芝浦メカトロニクスグループのCSR(企業の社会的責任)への取組みを報告し、ステークホルダー(利害関係者)の皆さまとのコミュニケーションのツールとすることを目的に発行しています。当社グループのことを少しでも多く理解していただければ幸いです。皆さま方からの忌憚のないご意見、ご感想をお寄せください。

報告書の対象範囲

対象期間
対象組織

2007年度(2007年4月1日から2008年3月31日まで)
国内外の関係会社を含む芝浦メカトロニクスグループを対象としています。
本報告書中の「当社」は芝浦メカトロニクス(株)を、「当社グループ」は芝浦メカトロニクス(株)および03ページに記載した国内外の関係会社を意味しています。

データの範囲

経済性報告については、芝浦メカトロニクス(株)および連結対象関係会社8社のデータです。
環境報告については芝浦メカトロニクス(株)および国内関係会社(芝浦ハイテック(株)除く)のデータです。

発行時期

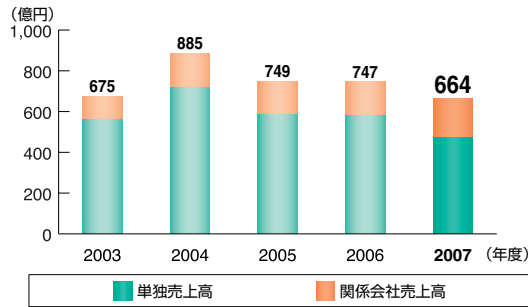
2008年6月(次回:2009年6月、前回:2007年6月)

参考にしたガイドライン

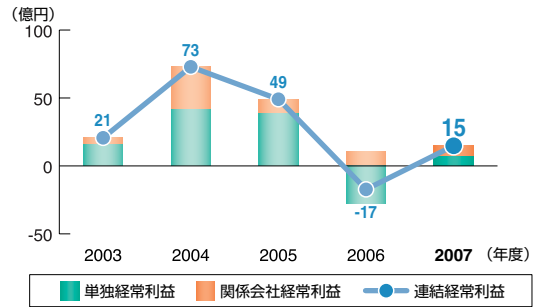
・GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポートニング・ガイドライン2006」
・環境省「環境報告ガイドライン2007年版」

芝浦メカトロニクスグループの概要・経済性報告

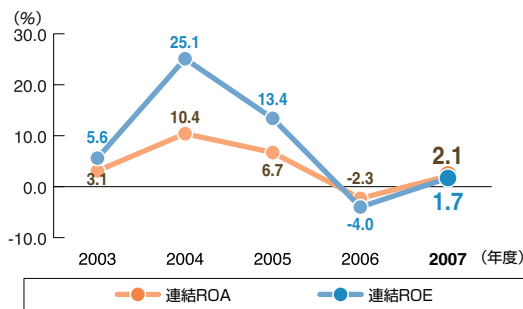
売上高



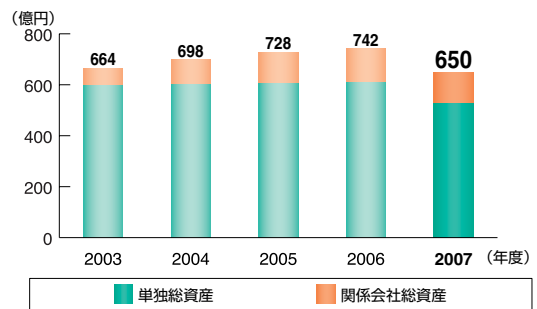
経常利益



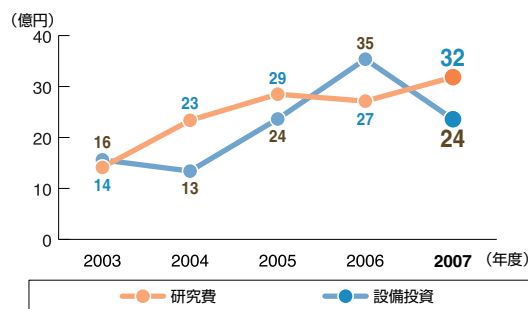
ROAとROE



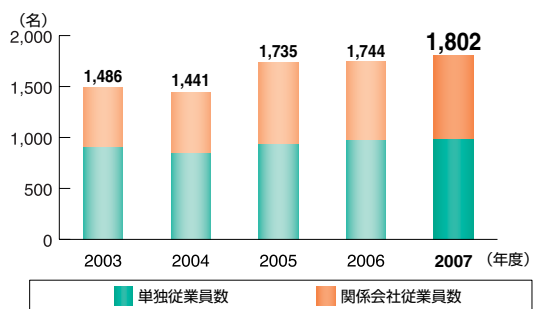
総資産



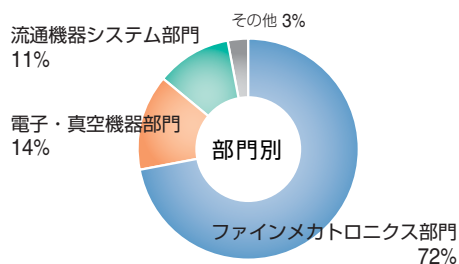
研究費・設備投資



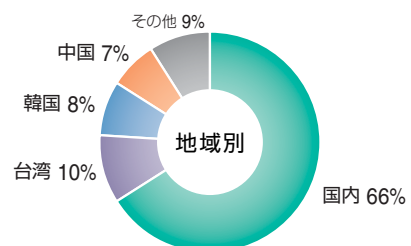
従業員数



2007年度 部門別売上高比率



2007年度 地域別売上高比率



会社概要・事業基軸

当社は1939年に(株)芝浦製作所として設立以来、さまざまな変遷を経て、1998年には大胆な事業構造改革を果たし、社名を芝浦メカトロニクス(株)と改め、現在に至っています。当社は事業基軸を「デジタル時代のインフラプロバイダー」と定め、社会構造の変革に対応してエレクトロニクスコンポーネントの製造装置を供給しています。

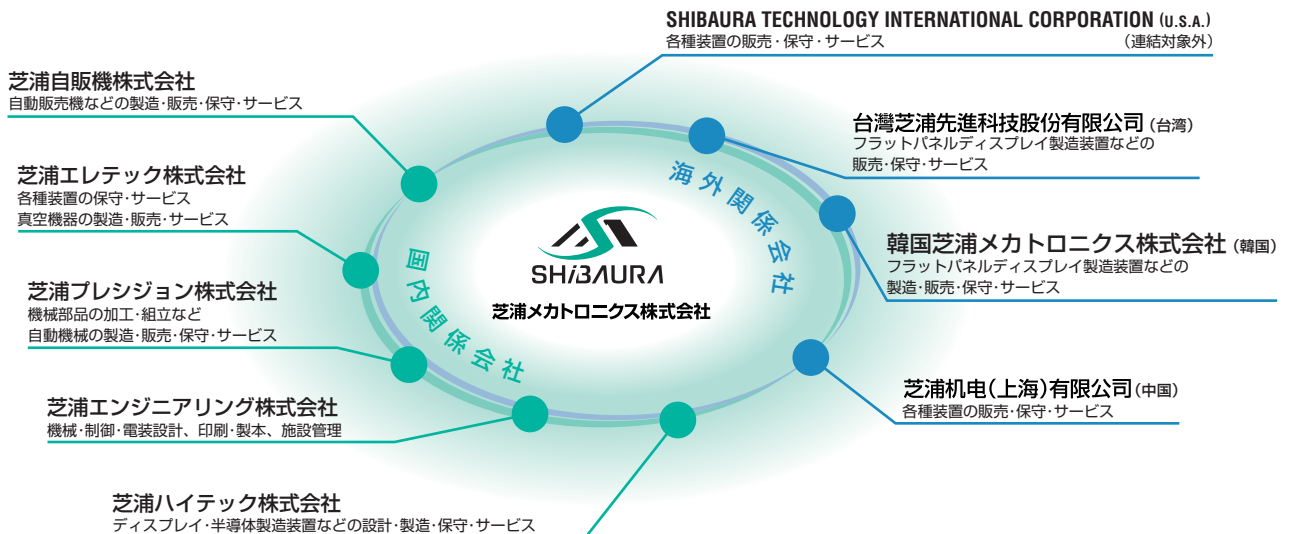
会社概要

商号：芝浦メカトロニクス株式会社
 本社所在地：神奈川県横浜市栄区笠間2-5-1
 設立：1939年10月12日
 資本金：6,761,495,960円
 会社が発行する株式総数：100,000,000株
 発行済株式の総数：51,926,194株
 株主数：7,956名
 決算期：3月31日
 売上高：連結 664億円／単独 471億円
 従業員数：連結 1,802名／単独 985名

配当

当社グループは株主の皆さまへ利益還元を行うことが重要と考えており、業績に裏づけられた安定配当を維持することを基本方針としています。その実施につきましては、当該期および今後の業績を勘案して、総合的に決定することとしています。業績および株主還元方針に従い、2007年度は中間配当・期末配当とも1株当たり4円00銭、年間で8円(前期から1円増配)の配当とする方針です。

芝浦メカトロニクスグループ

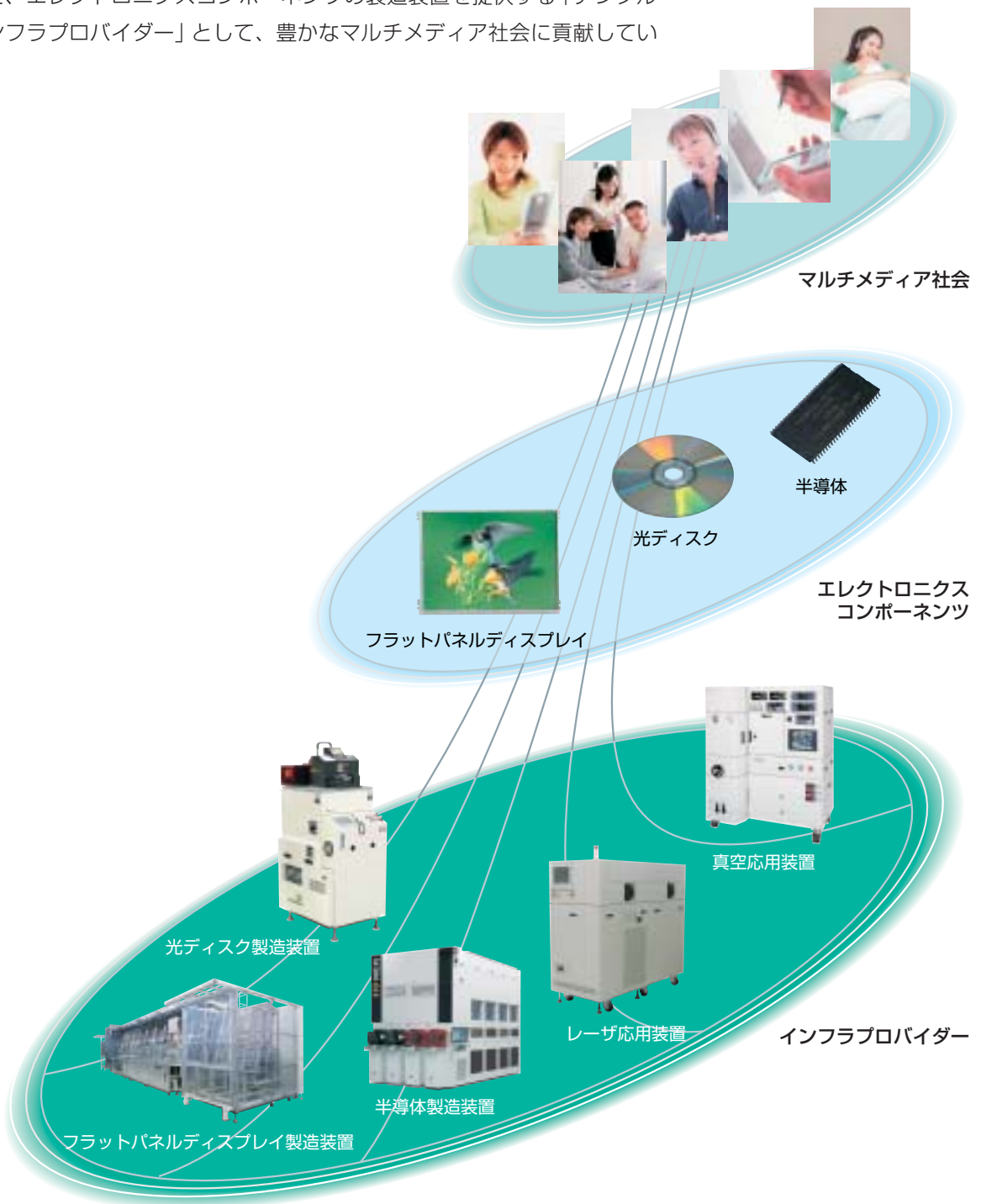


事業基軸

デジタル時代のインフラプロバイダー

インターネットとモバイル機器の普及によりグローバルな情報通信時代を迎え、パソコン・薄型テレビ・携帯電話・DVDレコーダといった各種のマルチメディア応用商品やデジタル家電が日々開発・製造されています。

当社グループは、それらを構成するフラットパネルディスプレイ、半導体、光ディスクなど、エレクトロニクスコンポーネントの製造装置を提供する「デジタル時代のインフラプロバイダー」として、豊かなマルチメディア社会に貢献しています。



製品紹介

フラットパネルディスプレイ製造装置

液晶をはじめとするフラットパネルディスプレイ市場は、大型薄型テレビを中心に成長を続けています。

当社はTFT工程、カラーフィルタ工程、セル工程、モジュール工程にわたって、高精度、高生産性の製造装置をお客様に提供しています。

■ 主要製品



ウェットプロセス装置



配向膜 (PI) インクジェット塗布装置



アウトリードボンダ



真空貼り合せ装置



シール塗布装置



液晶滴下装置

半導体製造装置

半導体デバイスは、高集積化が進んでおり、これに対応した装置の開発を進めています。また、性能向上と経済性を両立させ、地球環境に配慮した商品を提供するための新技術の開発に取り組んでいます。前工程から後工程まで、特徴ある装置でお客様のご要望に幅広くお応えしています。

■ 主要製品



高速アッシング装置



300mmウェーハ対応
枚様式洗浄装置



ウェーハ端面検査装置



高精度ダイボンダ



フリップチップボンダ

光ディスク製造装置

光ディスクなどの記録メディアは、大量の文字、音声、画像データを処理するために、高密度化が急速に進んでおり、市場もブルーレイディスクを中心に拡大しています。

当社は、この市場の要請に対し、豊富な実績と技術の蓄積をもとに、高生産性、高稼働率、低ランニングコストを追求した製造装置を世界各国に提供しています。

■ 主要製品



次世代DVD-ROM用インライン装置

真空応用装置・各種応用装置

スピードと信頼性を追求する自動化技術と真空ポンプメーカーとして培ってきた真空技術を融合し、長年に携わってきたモノづくりのノウハウを活かして、電子部品・自動車部品・半導体業界などさまざまな分野に新たな価値を創造する装置を提供しています。



光触媒用スパッタリング装置

■ 主要製品



有機EL用真空貼り合せ装置



枚葉式多層膜形成用
スパッタリング装置

レーザ応用装置

レーザ単体およびレーザを利用したレーザ加工装置のメーカーとして、生産性の向上と自動化に取り組んできました。豊富な実績と「微細加工・光学系応用技術」をもとに、レーザ加工の新分野を切り開き、「高性能」をコンパクトに、より使いやすく、さらに環境負荷を低減した装置を太陽電池製造、二次電池製造をはじめとするさまざまな分野に提供しています。

■ 主要製品



TAB-IC用レーザーマーカ



太陽電池用パターンニング装置

自動販売機

芝浦自販機(株)は、一貫した各種自動販売機の開発・製造・販売・メンテナンス事業をはじめ、ネットワーク技術を駆使した自動販売機の遠隔管理システムなどの提案により、業界をリードしていきます。

■ 主要製品



成人式別対応
たばこ自動販売機



非接触ICカード対応券売機
(Edy対応券売機)

はじめに

芝浦メカトロニクスグループとしてCSR報告書を発行するのは、今回で4年目となりました。これまで、企業行動理念にある「すべてに革新を」「合理性の追求」「人間性の尊重」にもとづき、未来に向けて今やるべきことは何かという視点でCSR活動を進めてまいりました。ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通して当社グループが果たすべき役割は何かを常に考え、経営に反映するように努めております。そして、モノづくりをしている企業の立場を踏まえ、「モノづくりメーカーとしての当社が、現代の社会や地球環境に関する諸問題を自分たちの問題としてとらえ、当社グループ事業活動やステークホルダーとのかかわりの中に組み込み、自分たちがその諸問題に主体的に取り組み、さらにその過程で自らも成長していく」そのようなCSRを目指し、活動を進めていくことだと考えています。

モノづくりメーカーとしてのCSR経営

「現代の社会や地球環境に関する諸問題」の中で、昨年から一段と大きく報じられているのは地球温暖化問題です。当社グループでは、「環境憲章」を定め、これら環境問題に取り組んでいます。

この中で「かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、人間の基本的責務」と述べていますが、このことが、今まさに喫緊の問題であり、一企業としても地球環境との調和に向けての行動が求められています。モノづくりメーカーの当社グループとしては、資源生産性、環境効率性の向上を目指し、事業系、製品系において、環境活動を進めておりますが、加速する温暖化に対して、長期的な視点で実効的な成果を出していくことが重要と考えています。

「将来世代のニーズを損なうことなく現在世代のニーズを満たす発展」という持続可能な発展を続けてい

トップメッセージ

モノづくりメーカーとしてのCSR 人が生きるCSR

代表取締役社長 森田 茂樹



くために、これからの企業活動はどうあるべきか？
このことを前向きに考えていく時代となったのです。
モノづくりメーカーとしての当社グループが持つ技

術・ノウハウ・経験など企業活動全般を駆使して地球環境との調和を図っていくことが、企業としての務めと考えております。

環境憲章

芝浦メカトロニクスグループは、「デジタル時代のインフラプロバイダー」という事業基軸のもと、環境に配慮した生産活動を推進し、環境調和型製品をグローバルに提供していきます。

環境への取組みは、経営の最重要課題のひとつとして位置づけています。

開発、生産など事業活動で、環境負荷を低減し、地球環境との調和を図ることは、「かけがえのない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、人間の基本的責務」との認識に立った環境ビジョンのもと、豊かな価値の創造と環境との共生を図ることで持続可能な社会へ貢献します。

環境経営の方向性、事業でのかかわりを明確にし、以下の環境マネジメントを推進していきます。

- 「環境経営の推進」
- 「環境調和型製品・サービスの提供と事業活動での環境有益性」
- 「社会的企業」

人が活きるCSR

当社グループにおいて実際のCSR活動を行う主体は一人ひとりの従業員です。CSRという視点で、自社と自分の業務をステークホルダーとのかかわりの中で見直すことで、CSRへの意識がおのずと高まり、新たな価値が見出せると考えています。当社グループが目指すCSRを主体的に捉え、CSRという意識を持って日常業務を行うこと、そのような行動によりCSR活動が会社に根付いていくと考えています。従業員自らが考え、行動し、その中で成長していくこと、このことを「人が活きるCSR」と私たちは捉えています。「モノづくりの喜び」「自分自身の仕事が生かすことへの喜び」を従業員が感じる、このような価値を大切にしたいと考えています。

「持続可能性」にかかわる問題には「温暖化」だけではなく、他にも多くの社会的な問題があることをわれわれは視野に入れなければなりません。企業活動の範囲が広がるにつれて、ステークホルダーの範囲が広がり、影響を与え、与えられる対象が拡大していることを認識する必要があります。このような認識を踏まえて、当社グループは、健全な事業活動を行うことにより企業としての成長を続け、従業員もそこで「モノづくりの喜び」を感じ、いきいきと働いている、そしてそのことが持続可能な社会の実現へとつながっていく、そのようなCSR活動を進めていきたいと考えています。

このような会社が現在進めているCSR活動を一冊にまとめてみました。できるだけ多くの方々にご覧いただき、忌憚のないご意見・ご批判をいただければ幸いです。

企業行動理念

すべてに革新を

芝浦メカトロニクスグループは、商品を通して常に新たな可能性をお客様に提供し、社会の発展に寄与したいと考えています。そして、諸活動を通じて常に社会に貢献し続けられる企業として、革新を進めていきます。

合理性の追求

芝浦メカトロニクスグループは、機能・性能・価格・サービスすべての面で、お客様にご納得いただける商品を提供していくために、たゆみなく合理性を追求し続けていきます。

人間性の尊重

芝浦メカトロニクスグループは、人と人との繋がりを大切にしています。お客様、株主・投資家、従業員、調達取引先、地域社会の方々とのコミュニケーションを通して、幸せな社会を築いていきたいと考えています。

目標と実績

当社グループでは、リスク・コンプライアンス委員会、社会・ES活動委員会および地球環境会議にて、それぞれCSR活動の方向づけを行い、その内容をCSR委員会にて審議し、正式決定しています。

	大項目	2007年度目標
マネジメント	コーポレート・ガバナンス	グループ会社を含めた内部統制システム構築
	リスク・コンプライアンス	「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」の徹底
		コンプライアンス徹底のための教育実施
		通報制度(リスク相談ホットライン)の運用 災害への対応策整備
社会性報告	お客様とのかかわり	お客様の声にもとづくCS向上への取組み
		お客様の立場に立った製品品質保証
		製品安全への取組み
	株主・投資家の皆さまとのかかわり	IR、説明会充実
	調達取引先とのかかわり	グリーン調達、CSR調達の推進
	従業員とのかかわり	障がい者雇用の促進
		多様性のある組織づくり(女性、外国人、高齢者などの活用)
ワーク・ライフ・バランスの実現(多様な働き方の支援、業務効率向上に向けた取組み)		
	メンタルヘルスケアの積極的推進	
	安全・健康	
地域社会とのかかわり	社会貢献活動	
環境報告	環境マネジメント体制の強化	海外製造拠点への指導・支援
	環境に配慮した製品設計	環境調和型製品の創出
	環境に配慮した生産・販売プロセスの構築	地球温暖化対策への取組み
		全サイトでのゼロエミッションの推進
環境コミュニケーションの推進	さまざまなメディアを通じた環境の取組みの紹介	
コミュニケーション	コミュニケーション	CSR報告書の発行、ホームページの充実

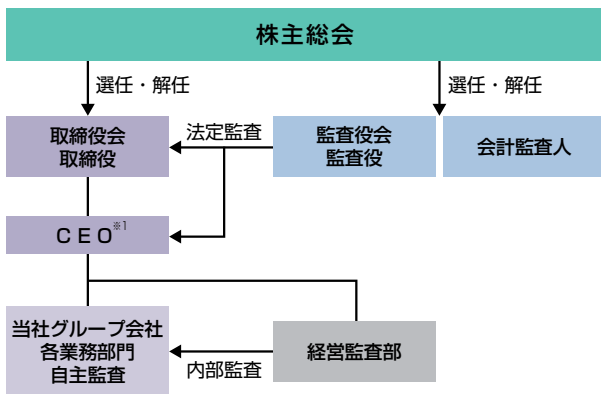
※ 達成度 … ○：達成、△：一部達成、×：進捗なし

2007年度の主な実施項目		達成度 [※]	掲載ページ	2008年度の目標・計画
内部統制システム構築	○	11	●グループ会社を含めた内部統制システムの適切な運用	
新入社員、新任管理職への教育実施	○	11-12	●「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」の徹底 ●コンプライアンス徹底のための教育実施 ●通報制度(リスク相談ホットライン)の運用 ●防災体制の適切な運用	
新入社員、新任管理職への教育実施	○			
適切な運用	○			
防災体制整備、規程整備、体制整備、防災教育資料作成	○			
CSアンケート実施、新生e-サービスセンター始動、営業所拡大によるお客様重視の組織改革	○	13-14	●お客様の声にもとづくCS向上への取組み(CSアンケート実施) ●お客様の立場に立った製品品質保証(QS委員会開催) ●製品安全への取組み(QS委員会開催)	
階層ごとにQS委員会を開催、全社QS委員会を開催	○			
階層ごとにQS委員会を開催、全社QS委員会を開催	○			
決算説明会2回実施、事業方針説明会1回実施、個別IR実施	○	18	●IR、説明会充実(会社案内全面改訂)	
環境活動を評価項目に入れた取引先評価を実施	○	17	●グリーン調達、CSR調達の推進(調達取引先のCSR調査開始)	
2007年4月に1.8%達成、2007年度に4名採用	○	19-22	●障がい者雇用の促進(法定雇用率キープ、インフラ整備) ●人権教育実施 ●ワーク・ライフ・バランスの実現(労働時間の適正管理、毎週水曜日の定時退社をさらに徹底、定時退社100%を目指す) ●メンタルヘルスケアの積極的推進 ●安全・健康(安全健康大会の開催、安全巡回実施)	
2007年度定年退職者15名のうち13名を再雇用	○			
定時退社日(毎週水曜日)を設定、管理職が巡回	○			
各事業所にて、産業医および看護師が健康相談	○			
各事業所にて安全衛生委員会を毎月開催	○			
事業所周辺清掃、中学生事業所見学の受入	○	24	●社会貢献活動(事業所周辺清掃、小中学生事業所見学の受入、体育館の貸出、東芝グループ活動への参加)	
海外製造拠点の現場改善指導	○	—	●海外製造拠点への指導・支援(海外製造拠点の現場改善指導を継続的に実施)	
ファクター(製品環境効率の割合)を用いた製品評価で推進	○	29	●環境調和型製品の創出	
CO ₂ 排出量削減に向け、省エネ施策の実施	△	30,32-33	●地球温暖化対策への取組み(組織としての活動と個人としての活動を推進)	
国内全ての製造拠点でゼロエミッション0.5%以下を達成	○	31	●全サイトでのゼロエミッションの推進(前年度実績を踏まえ、目標値を上方修正し推進)	
CSR報告書にて環境活動を開示	○	—	●さまざまなメディアを通じた環境の取組みの紹介(CSR報告書にて環境活動を開示)	
2007年6月にCSR報告書発行	○	—	●CSR報告書の発行、ホームページの充実(2008年6月にCSR報告書発行)	

マネジメント体制

当社グループは、コーポレートガバナンスの充実と、リスク管理やコンプライアンスの徹底によりステークホルダーの皆さまから信頼される企業であることに努めています。

コーポレートガバナンス体制



※1 CEO (Chief Executive Officer) … 最高経営責任者

リスク・コンプライアンス体制

当社グループは社会的責任を果たすための行動規範として、「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」を定め、これを法律・社会規範・倫理などについてのコンプライアンスやリスクマネジメントの根幹とし、事業を進めています。コンプライアンスを経営の基本とする企業風土を醸成し、社会的信用をより向上させるとともに、積極的にリスクを管理し、万一発生した時は適切に対応する体制を構築しています。

また内部通報制度として、「リスク相談ホットライン」を設置して、リスクが重大問題化することを未然に防ぐ体制を構築しています。

内部統制システム構築への対応

当社グループは、2008年度から実施される金融商品取引法(日本版SOX法)に対応した財務報告に係る内部統制の構築を推進するため、2006年9月にJ-SOX推進部を発足させ、2007年度において、経営トップ方針にもとづき、当社グループ全体へ「財務報告に係る内部統制」の構築を実施しました。このシステムにより、2008年度から対応していきます。

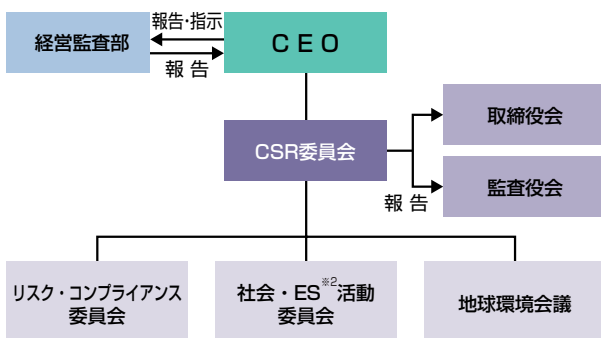
リスク報告と対応

リスク報告実績の大半を占める「安全管理」に関しては、さまざまな対応策を講じたことにより減少してきました。一方、災害に関する報告件数は、少ないながらも年々増加しています。また、海外での事件・事故に関する報告件数も増加しています。これらは、発生件数は少ないものの、一旦発生した場合、大きな被害を生ずることがあるため、万全の対策が必要です。

これらの「災害リスク」と「社会リスク」は、これまでは事業所や拠点個別に管理・対応していましたが、全社レベルでの管理、統制を可能とする制度や体制の整備が急務であると考え、2007年10月、「災害対策基本規程」「海外危機管理規程」「事業所防災規程(防災計画)」の3規程を全社規程として新たに制定しました。

これら新しい規程では、災害リスクにおいて、全社レベルでの指揮統括者をCRO^{※3}に集約しています。平常時においては全社統一した防災施策の実施、緊急時においては当社本社および災害発生拠点に災害対策本

CSRマネジメント

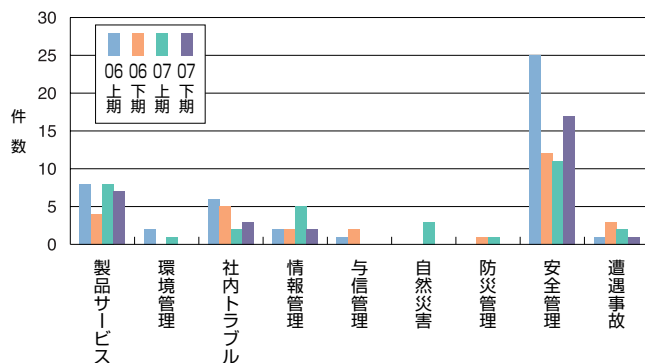


※2 ES (Employee Satisfaction) … 従業員満足

※3 CRO (Chief Risk-Compliance Management Officer) … 危機管理最高責任者

部を設置し、拠点における指揮権限者との情報共有、役割の分担とともに、拠点が孤立無援化した場合に備え、拠点の指揮権限者への権限委譲などを定めました。

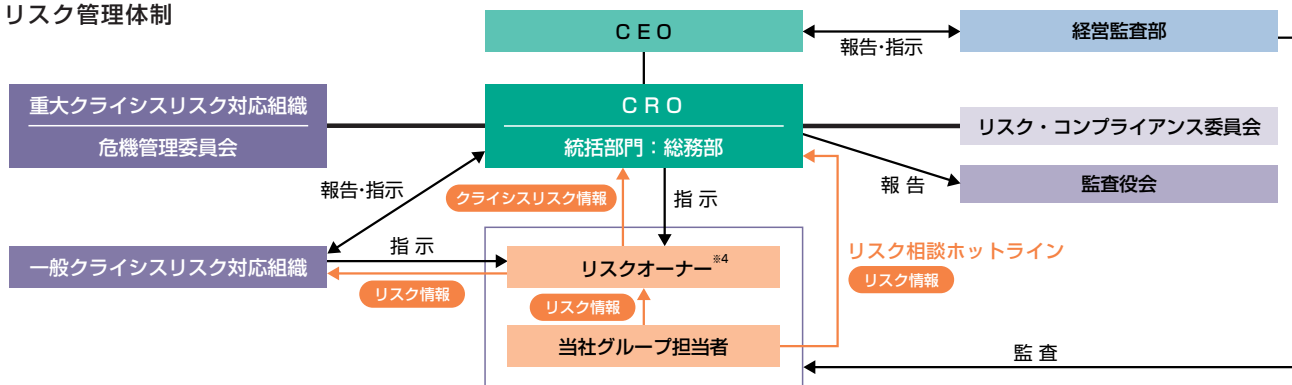
リスク情報報告件数(2006年度～2007年度)



芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準

第1章 事業活動に関する行動基準	1. お客様の尊重 2. 生産・技術活動および品質活動 3. 営業活動 4. 調達活動 5. 環境活動 6. 輸出管理 7. 独占禁止法等の遵守 8. 不適正な支出の禁止 9. 官公庁との取引 10. 技術者倫理の遵守 11. 知的財産権の尊重 12. 適正な会計
第2章 会社と個人の関係に関する行動基準	13. 人間の尊重 14. 会社情報・会社財産の尊重
第3章 情報開示などに関する行動基準	15. 広報活動 16. 広告活動
第4章 社会との関係に関する行動基準	17. 社会とのかかわり 18. 政治献金等

リスク管理体制



※4 リスクオーナー … 問題を抱える部門長

輸出管理

当社グループは国際的な平和と安全の維持を阻害するおそれのある取引に関与しないよう、輸出または輸出関連取引を行うにあたり、これを規制する法令を遵守し、またその立法主旨に立脚して業務を遂行しています。

「芝浦メカトロニクス輸出管理プログラム」を制定し、すべての役員および従業員はこれを遵守して不正取引

に関与することのないよう努めています。

さらに、教育に重点を置き、輸出管理の基本的な認識を深め、問題意識を醸成するため、すべての役員および従業員に対する教育、また部門の管理者や担当者に行うコース別の体系的集合教育、海外赴任者や途中入社者など必要に応じ実施する個別教育などを行っています。

お客様とのかかわり

お客様の満足や利益に貢献する商品、サービスを提供することが、ひいては当社の成長と発展につながるものと考えています。お客様の声を聞き、日々の改善に取り組んでいます。

お客様の声を生かす

納入した製品に対するご要望やご要求に最大限お応えするよう営業・設計・製造・サービスのすべての部門が窓口となり、お客様の「声」を伺っています。サービス窓口の「e-サービスセンター」では、24時間体制で日常のあらゆるお問合せを受け付けています。

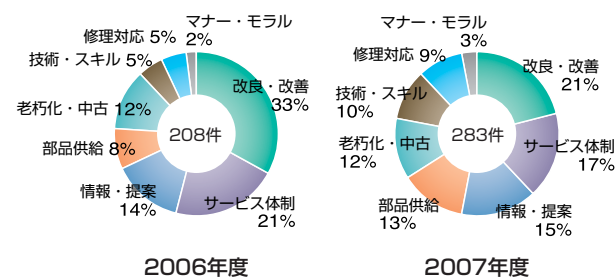
また、年1回お客様にご協力いただき、当社グループのサービスに関する「CS^{*1}アンケート」を行っています。お客様からいただいた厳しいご意見やご要望を分析し、改善項目を選び出し、実行しています。

*1 CS(Customer Satisfaction) … 顧客満足

2007年度は、

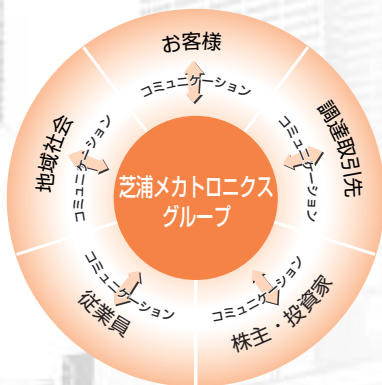
- ① 顧客密着型「新生e-サービスセンター」始動
- ② 営業所拡大によるお客様重視の組織改革
- ③ 中古事業取組強化
- ④ スキル・マナーを中心とした社内教育の充実などの取組みを行いました。

CSアンケート（お客様からのご意見・ご要望比較）



社会性報告

当社グループはお客様、調達取引先、従業員、株主・投資家、地域社会などさまざまなステークホルダーの皆さまとのかかわり、皆さまの声を聞きながら事業を進めています。ステークホルダーの皆さまとの一つひとつの関係を大切にしています。

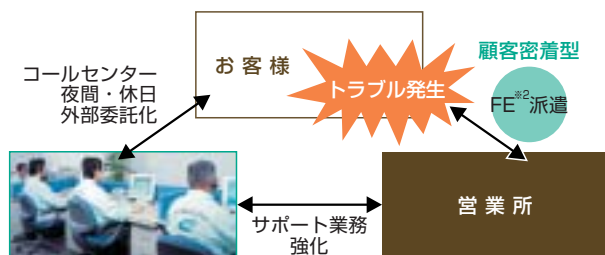


中古事業への取組み強化



展示会で中古装置をアピール

サービスが顧客密着型へ移行！「新生e-サービスセンター」始動



新生e-サービスセンター

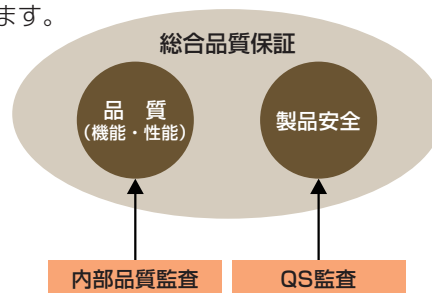
※2 FE(Field Engineer) … フィールドエンジニア

題について、組織階層毎に「QS^{※3}委員会」を設け、個々の物件の対応から全社システムの改善まで幅広い取組みを行っています。

※3 QS … Quality & Safety

<品質システムの維持監視>

これらの体制を常にチェックするため、ISO9001規格にもとづく内部品質監査とともに、製品安全に重点をおいた「QS監査」を年1回行い、製品の安全確保に努めています。



お客様の立場に立った品質保証

当社グループではお客様の立場に立った品質保証を実現するために、製品の安全と品質(機能・性能)の両面からCSを向上させる「総合品質保証基本方針」を定めています。

総合品質保証基本方針

芝浦メカトロニクスは、人間尊重を基本とする経営理念に則って、関連する法令を遵守するとともに顧客第一に徹し、お客様に満足していただける高品質で安全、かつ機能を先取りした商品およびサービスを提供し、社会に貢献することを目指します。

<品質管理システム>

ISO9001に準拠した品質システムにより、受注から設計、製造、試験、据付、サービスまで各段階で適切なレビューを行うとともに、各部門に寄せられたお客様のさまざまなご意見や市場情報を分析し、製品改良に役立てています。

<製品安全リスクマネジメント体制>

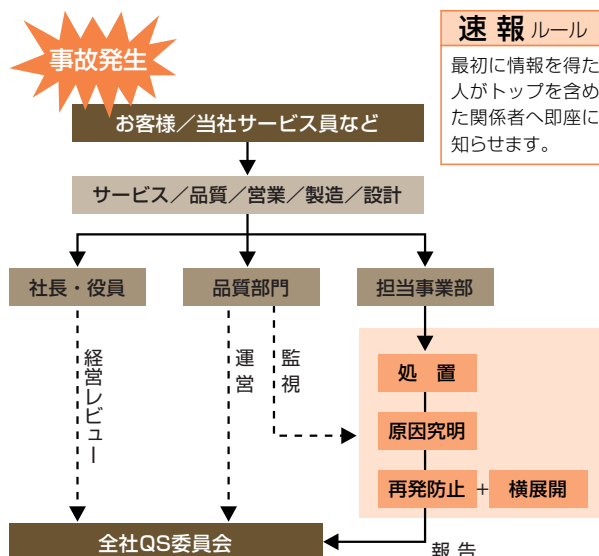
また、品質課題やPLにつながる可能性のある安全問

製品安全への取組み

ケガや火災などにつながる製品安全にかかわる事故は最優先の問題として取り組んでいます。

- ① 「速報」ルール
- ② 第三者による客観的な監視
- ③ 経営視点からのレビュー

の3つの施策により、すぐに行動を起こす「早さ」、情報伝達の「速さ」、そして二度と事故を起こさない徹底した管理体制をとっています。



従業員がいきいきと働くことができる環境づくり

中国の製造業は労働集約産業として発展しました。しかし、近年の産業のハイテク化にともない、労働集約産業から知識集約産業への転換を標榜したため、上海芝浦では、早くから従業員を研修のため日本に派遣し、自ら意欲が奮い立つような労働環境を目指してきました。今では、日本の本社に引けをとらない技術・サービス力を有し、お客様への技術・サービスの改善に貢献しています。

社内教育、研修の一環として、入社後一定期間経過後、サービス要員を中心に本社へ派遣し、当社グループ装置の知識と技術の習得をしています。さらに日本語を中心とする語学研修の学費の支援も実施し、本社とのスムーズなコミュニケーションと日本文化への理解をさらに深めることに役立てています。

また、自己意識の向上、自己管理の推進を目指すように指導しています。従業員に可能な限り業務の裁量権を与えるのも、そのひとつです。

上海地区の外資系の会社は、労働環境が非常に良いといわれています。当社も労働環境水準の維持に努めています。外部からの専門家を招いての安全教育、コンプライアンス教育などを計画しています。2008年1月より「労働契約法」が施行されましたが、当社はこの法律の趣旨に則り、従来にも増して、従業員の安全、労働環境に配慮しています。



社内会議

特集

中国でのビジネスと地域社会とのかかわり

芝浦機電(上海)有限公司(以下、「上海芝浦」)は、2001年9月に設立後、中国のハイテク産業の象徴でもある液晶、半導体関連の製造装置の販売、サービスを提供してきました。

21世紀を迎えた中国は、まさしく世界の工場と化し、欧米、アジアの主要国よりの直接投資が急増し、世界にハイテク、デジタル機器を供給する一大拠点となりました。そのハイテク産業を支えているのが、まさしく、液晶、半導体業界です。



上海本社の入っているビル

地域社会とのかかわりを重視

中国の沿岸部ベルト地帯を主たる事業領域として展開する当社は、上海本社のほかに北京、南京、蘇州、深圳、厦門と各地に営業・サービス拠点を持っています。これらの拠点では、言葉の問題もあるため地元出身者を採用しており、地域の労働市場にも貢献しています。

また、今年からは、上海を中心に卒業前の大学生の社会研修生の受入を始めました。今年は2名の学生を社会研修生として受け入れました。一人は経理、もう一人は営業の研修を行っています。経理研修生は、卒業と同時に当社に就職する予定です。日本のアルバイトとは異なり、会社の実務を教え、OJTに近い研修方法をとっています。

当社の扱っている製品が直接地元の人々の手に届くものではなく、なじみにくいということもあり、当社から積極的に地元の人たちと交流し、地域への社会貢献を実施していくことが重要と考えています。

サービス体制

上海芝浦の主な業務は、お客様に納入した装置のアフターサービスです。サービス拠点として、上海を中心に5か所の事務所を開設しています。中国では、日本、韓国、台湾でのサービスとは異なる大陸特有の距離感があり、また民族の気質などさまざまな条件に合わせる必要があるため、お客様の近くにサービス拠点を設立してきました。設立当初、サービスエンジニアは数名でしたが、現在では19名を数えるまでに拡大し、2007年は資材部門を設立し専任担当を1名採用しました。

中国のハイテク産業

－ 液晶・半導体 － を支える

中国ではいま、経済の高成長と社会の高度化にともない、市民生活が豊かになりつつあります。そのような状況の中で、当社は液晶、半導体という、今まさに中国が必要としているハイテク製品の製造装置を提供し、その装置が製造する液晶テレビ・パソコンなどの製品市場に協力しています。このように発展する中国市場に貢献していることは、当社グループと当社従業員の大きな誇りと自負となっています。

「必要なところに必要なものを提供する」この考えにもとづき、私たち上海芝浦はビジネスと地域社会に根ざしたCSR活動を進めていきます。



クリーンルーム内作業

調達取引先とのかかわり

当社グループは、グループ共通の調達方針にもとづき、法令遵守や人権、環境を重視し、調達取引先の公平・公正な評価、調達取引先と相互に利益のあるパートナーシップを構築し、グリーン調達を推進しながら、グローバル企業として社会的責任を果たしていきます。

調 達 方 針

- 公平の原則 すべての調達取引先に公平に競争の機会を開放します。
- 公正な評価 価格・納期・品質・サービス・安定供給および環境への配慮の面から総合かつ公正な評価をします。
- パートナー 調達取引先と相互に利益のある信頼関係を樹立し、維持することに努めます。
- 遵法の原則 調達取引先との契約上の義務を誠実に履行し、各国、地域の法令などを遵守します。
- グリーン調達の推進 地球環境に配慮した部品・資材の調達を推進します。

公正で透明な取引に向けて

当社グループは、資材調達にかかわる法規制やルールを遵守することはもちろん、公正な取引を通して、取引先と相互に利益ある信頼関係の構築に努めています。

また、主要取引先には、毎期実施している「ビジネス・パートナーズ・ミーティング」にて事業計画・生産計画・調達方針だけでなく、取引先評価方法が品質、コスト、納期遵守率および環境活動であることを説明し、各取引先に評価結果を公開することで、評価の透明性を確保しています。



ビジネス・パートナーズ・ミーティング

サプライチェーン全体でのCSR調達[※]の推進に向けて

当社グループでは、2000年より「グリーン調達ガイドライン」を制定し、取引先とともに活動を進めてきました。今後はさらに発展させ、環境に加え、調達品を生産・供給するサプライチェーン全体で社会的側面に配慮したCSR調達を進めていきます。

特に今後予想される海外調達の増加にともない、海外取引先に対するCSR調達を推進していくことが必要不可欠な条件となってきています。

国内取引先には、毎期実施している主要取引先との「ビジネス・パートナーズ・ミーティング」にて、CSR調達についての相互理解を深め、その後取引先のCSR調査を開始していきます。

※ CSR調達 … CSRの取組みを調達・購買活動にまで広げ、調達先にもCSRの実践を要請すること。「商取引、労働条件、安全衛生、環境保全などの法令遵守」「強制労働や児童労働の禁止」「人権・人格の尊重」「不正取引の禁止」「化学物質などの適正管理、製品に含有する物質の規制遵守」などが重視される。

株主・投資家の皆さまとのかかわり

株主・投資家の皆さまとのコミュニケーション

業績概要や中期経営計画の情報を適時に開示しています。証券会社や機関投資家、報道機関向けに半期ごとの決算説明会、年に1回の事業方針説明会および事業所見学会や記者会見にて説明しています。

また、機関投資家への個別IRミーティングを随時行うなど、株主や投資家の皆さまに当社グループの事業への理解を深めていただけるよう努めています。



IR資料



決算説明会



事業方針説明会

広報メディアを通じた情報開示

ステークホルダーの皆さまに当社グループのことを少しでも多く知っていただきたい、という思いで、会社案内、Annual Reportなどの冊子、ホームページな

どの媒体で、逐次当社グループの様子をお知らせしています。



会社案内



会社案内映像版



ホームページ



Annual Report

従業員とのかかわり

「芝浦メカトロニクスグループ事業行動基準」にある「人間の尊重」の立場に立って、一人ひとりの多様性を認め、人格と個性を尊重し、能力を発揮できる風土作りに取り組んでいます。

採用、昇進、昇給、賃金、定年など人事処遇における男女間の公平さの確保、介護休暇や育児休暇に関しても、男女ともに取得できるようにするなど、性別による制度格差はありません。また安全で健康に働くことのできる環境を提供し、働きやすい会社、働きがいのある会社になるよう取り組んでいます。

仕事と育児の両立

経営企画部広報室 高橋 智子

私は一年間の育児休職を経て復職し、現在は短時間勤務制度を利用し、勤務しています。

育児も頑張りたいし、仕事も続けたいと思ったとき、以前のように仕事ができるのか不安がありましたが、この短時間勤務制度が私をサポートしてくれました。今、仕事を続けていられるのも、この制度があったことと、職場の皆さんの理解と協力のおかげだと思っています。

現在は産休前に作成した自分の業務マニュアルを活用し、短時間で効率良く仕事ができるように心掛けています。

今後も、育児との両立を頑張っていきたいと思います。



者専用トイレの増設したり、障がい者の方が働きやすい環境整備づくりに取り組んでいます。

今後も各関係機関と連携を図りながら、採用活動を継続していきます。



障がい者用駐車場

障がい者雇用率確保に向けた取り組み

2006年度に積極的に採用活動を行った結果、2007年4月に障がい者法定雇用率1.8%を達成することができました。2007年度も引き続き、神奈川県主催の面接会の参加し、近隣のハローワークと連携を取るなど、当社の業務に就労可能な障がい者の採用活動を行ってきました。その結果、2007年度は4名を採用することができたので、2008年度も、法定雇用率1.8%を維持できる見込みです。

また採用活動の一方で、障がい者の職場定着を図るため、ジョブコーチを活用したり、設備面では障がい

高齢者雇用に向けた取り組み

当社グループ会社の定年は60歳ですが、2001年度から定年退職者を嘱託従業員として再雇用する制度「セカンドライフプラン制度」を導入しており、2006年度には、改正高齢者雇用安定法で求められる継続雇用制度とほぼ同等内容での65歳までの枠組みで雇用確保を行っております。2007年度定年退職者15名のうち13名を再雇用しました。

今後は、高齢者の技能を継承していくとともに、意欲ある従業員が心身ともに充実して働ける環境整備を進めていきます。

雇用形態の状況

当社の雇用状況は、2008年3月31日現在、正規従業員985名、パート従業員14名、嘱託従業員18名となっています。また、派遣従業員は約300名と契約しており、業務負荷に応じて変動しています。このように雇用形態はさまざまですが、一人ひとりが自分の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、「やりがい・働きがい」を向上させることで、「活力溢れる組織」の実現を目指していきます。

労働時間短縮への取組み

2006年度より、「ワーク・ライフ・バランス」を念頭に労働組合と連携を取りながら、健康で一人ひとりが自己の価値を高めていくような環境づくりを目指しています。

その取組みの一つとして、2007年度は、特に労働時間の短縮に力を入れ、定時退社日(毎週水曜日)の定着化および休暇の取得推進を掲げ、一人ひとりの意識を高めてきました。今後も労働時間の短縮に向けるとともに「次世代育成支援対策」に取り組み、男女ともに働きやすい環境づくり、職場の活性化を目指します。



定時退社日の巡回

日本での研修

韓国芝浦メカトロニクス 朴 聖徳

私は2007年1月から約半年間、横浜事業所で研修生として働きました。

技術習得はもちろん、日本の文化や考え方の理解までさまざまなことを教えていただき、今はとても良い経験となっており、自分にとっていい刺激となりました。

研修が始まった時に、各部門の業務を経験する時期があり、慣れていない仕事にも向き合う機会がありました。職場の人にとっては、われわれ研修生を指導することは大変なことだと思いますが、時には厳しく時には優しく教えていただきました。われわれにとっては良い勉強時間となりました。今もその時の事は忘れずに覚えております。

芝浦メカトロニクスには、さまざまな国の方が働いていましたが、みな、ごく自然に働いているように見えます。芝浦メカトロニクスには、国籍に関係なく、従業員が自分の仕事に対して頑張ることができる環境があります。多様性のある会社として、国籍を問わず一人の従業員、仲間として見る意識、グローバル企業として意識づけがされているということではないでしょうか。



安全と健康「安全健康管理の強化に向けて」

「芝浦メカトロニクスグループ安全衛生・健康基本方針」にもとづき、すべての事業活動において、生命・安全・法令遵守を最優先し、「安全で快適な職場環境づく

りと心身の健康保持増進」を推進しています。そして、芝浦メカトロニクスグループ丸となって安全健康管理水準の向上を展開しています。

2007年度 芝浦メカトロニクスグループ 安全衛生・健康基本方針

芝浦メカトロニクスグループは、「デジタル時代のインフラプロバイダー」として豊かな価値を創造し、「地球内企業」として、より良い地球環境の実現と社会発展に貢献するとともに、顧客、株主、従業員をはじめ、すべての人々を大切にします。そのために、すべての事業活動において生命・安全・法令遵守を最優先し、グループをあげて「安全で快適な職場環境づくりと心身の健康保持増進」を推進します。

- 安全衛生・健康を経営の最重要課題の一つに位置づけ、継続的な改善に努めます。
- 労働安全衛生法をはじめとするすべての安全衛生・健康に関する法令などを遵守します。
- 次の事項について目標・目的を定め実行します。
 - ◆ 業務に起因する災害や疾病の撲滅および通勤途上災害の防止ならびにこれらを誘発するリスクの低減
 - ◆ 全従業員が個々の能力を十分発揮するための心身の健康保持増進
- グループの事業にかかわるすべての人の安全と健康を確保するため、取引先に対して安全衛生・健康への取組みを求め、支援します。
- 私たちの安全健康に関する取組みや成果を積極的に公表し、社会の安全衛生・健康管理水準の向上に貢献します。

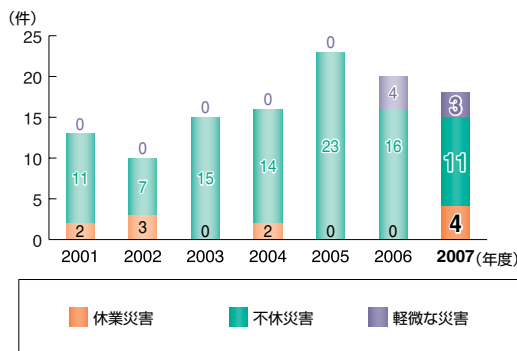
労働災害

不休災害を含む労働災害発生件数全体は減少しています。しかし、2007年度に休業4日以上 の休業災害が4件発生しました。災害の撲滅がなかなかできない原因として、製造現場側に立った実効性のある安全施策の展開とルールづくりが不十分であることが考えられま

す。そのため、製造現場側に立った人的側面・設備的側面での安全管理の強化、国内外関係会社及び設備安全を含めたトータル安全管理の徹底や今後の安全システム導入に向けた体制づくりを2008年度に行う計画です。

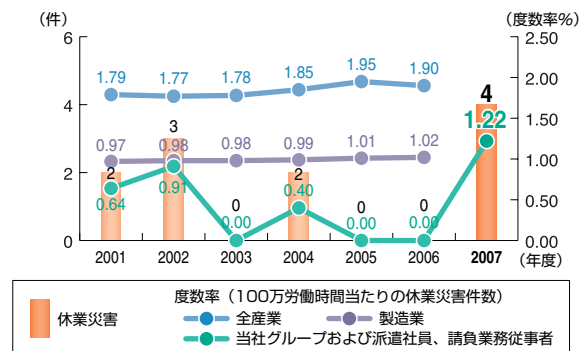
労働災害発生件数

(当社グループおよび派遣社員、請負業務従事者)



休業災害発生率(度数率)の比較

(当社グループおよび派遣社員、請負業務従事者)



メタボリックシンドロームへの対応

2008年4月から、「高齢者の医療の確保に関する法律」により、医療保険者は、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健康診査）と、その健康診査でメタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対する保健指導（特定保健指導）の実施が義務付けられます。

これを踏まえ、当社グループでは法律制定を前に生活習慣病への啓蒙とその予防・改善を図るため、さがみ野事業所を対象に特定保健指導（40歳以上）の試行（トライアル）を健康診断の委託先である（財）結核予防会 神奈川県支部の保健師により実施しました。

「YES! WE CAN」を発行

従業員の健康管理への意識向上のため、「YES! WE CAN」という広報誌を奇数月に発行しています。

以前は「健康だより」という題名で発行していましたが、2007年に「YES! WE CAN」に改めました。この題名には、従業員が自分自身の心身の健康に対して、受け身ではなく、自分で何ができるかを積極的に考え、自己管理して欲しいということ、一人ひとり個人から始まり、当社グループ全体が健康であるように、との願いがこめられています。

当社グループにおいて話題（問題）となっている健康

に関する内容、従業員が求めている内容および会社として従業員に知ってほしい内容などを盛り込み、産業保健スタッフ（産業医、看護師）が作成しています。



YES! WE CAN

健康管理室

本社・横浜事業所とさがみ野事業所にある健康管理室では、従業員の心身の健康保持・増進に努めています。メンタルヘルスケアについては、「一人で抱え込まず『話すこと』、『相談すること』で心の開放を！」を合言葉に相談体制を整え、来院だけでなく、メールや電話での受け付けも行き、従業員の心のケアなどに努めています。

当社グループの産業保健スタッフは、本社・横浜事業所およびさがみ野事業所に、それぞれ1名の産業医と1名の看護師、合計4名います。

産業医からのコメント

産業医 川上 博一

産業医は、健康診断結果についての指導や超過勤務健診の面談など従業員の心身の健康保持増進に努めております。

また、講演会を開催し、病気についての説明、生活習慣についてのアドバイスなどを実施しております。





技能・技術の伝承

すばらしく自動化が進んでいる企業でも、すべての工程を完全に無人化するのは大変に難しいと言われています。逆に最近では、人間の方が優れている点を再認識し、機械と人が上手に共存して効率を高めることが求められる時代になっています。

技能・技術を備えた人材への期待が高まる今日、芝浦プレジジョン(株)では2年前から、60歳定年以降も意欲と技能・技術を持つ従業員に活躍の場を提供することを目的として「再雇用制度」を導入し、ベテランから若手への技能・技術伝承に力を入れています。

具体的には、真空装置には欠かせない「アルミ溶接技能」や自動機組立に重要な「仕上げ技能」などの伝承を対象として推進しています。

最良品質の製品を世に送り出すための基本的なスキルと質を高め、究めるといって「一流のモノづくりをめざして」を合言葉に、これからも技能・技術の伝承活動を進めていきます。

特集

一流のモノづくりをめざして

芝浦プレジジョン(株)は芝浦メカトロニクスグループの製造受託会社として、卓越したモノづくり技術を培い「一流のモノづくり」をめざしお客様の信頼に応える高品質製品を提供しています。

第7回日本真空工業会技能賞受賞

2007年度の第7回日本真空工業会表彰において、芝浦プレジジョン(株)精密加工部の三沢義則が「永年にわたり真空業界・真空機器の発展に寄与された功績」を讃えられ、そのアルミ溶接技能に対して日本真空工業会から「技能賞」を表彰されました。「仕事に興味をもち、好きになり、自分の仕事に誇りをもってやり遂げることが大切」というのが、彼の後進へのアドバイスです。



地域社会とのかかわり

横浜市立西本郷中学校の生徒が来社

11月13日、横浜市立西本郷中学校の生徒6名が「職場訪問」授業の一環として本社・横浜事業所に来社し、クリーンルームでの現場実習、廃棄物の分別、消火器・消防ポンプでの放水を体験しました。

終了後、「電気系の会社に入社してみたいくなった」という声もあがり、当社へのイメージも変わったようです。

来年以降も続けていき、地域住民の皆さまとの交流を深めていきたいと考えています。



クリーンルーム作業を見学



環境活動の話聞く

事業所周辺清掃

環境月間の一環として毎年6月に事業所周辺清掃を実施しています。

今回も地域の皆さまから温かい言葉をいただき、充実した活動になりました。



本社・横浜事業所での活動



さがみ野事業所での活動

夏祭り

7月25日にさがみ野事業所で、8月9日に横浜事業所で、夏祭りを開催しました。夏祭りは、職場間だけでなくご家族、地域住民の皆さまとの交流を深め、楽しいひと時を過ごすことができる場となっています。



盛況な屋台



鎌倉市の小学生を中心とした植木リトールエコアンサンブルによる生演奏

栄区自衛消防隊技術訓練会

9月12日に行われた「平成19年度栄区自衛消防隊技術訓練会」で、当社グループから発災対応訓練の部および小型ポンプ操法の部にそれぞれ1チームが出場し、小型ポンプ操法の部では見事優良賞を受賞しました。自衛消防隊は事業所近隣での災害へも対応する体制をとっており、地域防災にも貢献しています。



発災対応訓練(救命訓練)



自衛消防隊

木材チップ

地域の皆さまに開放している横浜事業所敷地内の砂押川沿いのプロムナードの桜の木の下に、木材チップを敷き詰めました。この木材チップはさがみ野事業所の伸び過ぎた桜の木の枝を伐採し芝浦エンジニアリング(株)が加工したものです。

木材チップには、除草効果、地温上昇抑制効果、保水効果などがあり、来春にはよりきれいな桜の花を咲かせてくれることでしょう。



木材チップ

環境基本方針

当社は、液晶パネル、半導体、光ディスクなどの各種製造装置を開発・生産などの事業活動で環境負荷を低減し、地球環境との調和を図ることや、お客様がより少ないエネルギーや材料で商品を生産できる製造装置の提供を推進しています。

また、環境憲章のもと、豊かな価値の創造と地球環境との共生を図ることで、持続可能な社会へ貢献することを目指します。

自らの行動やマインドも革新し、グローバルにお客様の要望にこたえるように取り組みます。

■環境経営の推進

「環境」と「経営」を調査させた環境活動を推進します。

- 1 事業活動、製品に関わる環境側面について、環境影響を評価し、環境負荷の低減、汚染の予防などに関する環境目的および目標を設定して、環境活動を推進します。
- 2 監査の実施や活動のレビューにより環境経営の継続的な改善を図ります。
- 3 環境に関する法令、当社が同意した業界などの指針および自主基準値などを遵守します。
- 4 当社のために働くすべての人々の環境意識を高め、全員で取り組みます。
- 5 企業として、芝浦メカトロニクスグループ一体となった環境活動を推進します。

■環境調和型製品(ECP)の提供と事業活動での環境有益性

地球資源の有限性を認識し、製品系、事業系の両面から有効な利用、活用を促進し、積極的な環境施策を展開します。

- 1 ライフサイクルを通して環境の有益性に寄与する環境調和型製品を提供します。
- 2 地球温暖化防止、資源の有効活用、化学物質の管理など、すべての事業プロセスで環境負荷低減に取り組みます。

■社会的企業として

優れた環境技術や製品の開発と提供、および地域・社会との協調連帯による環境活動を通して、社会に貢献します。

相互理解の促進のために、積極的な情報開示とコミュニケーションを行います。

環境報告

「地球の温暖化」を食い止めるため、世界中で現在多くの試みが行われています。

モノづくりメーカである当社グループでは、開発、生産などの事業活動における環境負荷の低減を進めるとともに、お客様がより少ないエネルギーや材料で商品を生産できる製造装置を提供することにより、温暖化ガス排出低減を図っています。

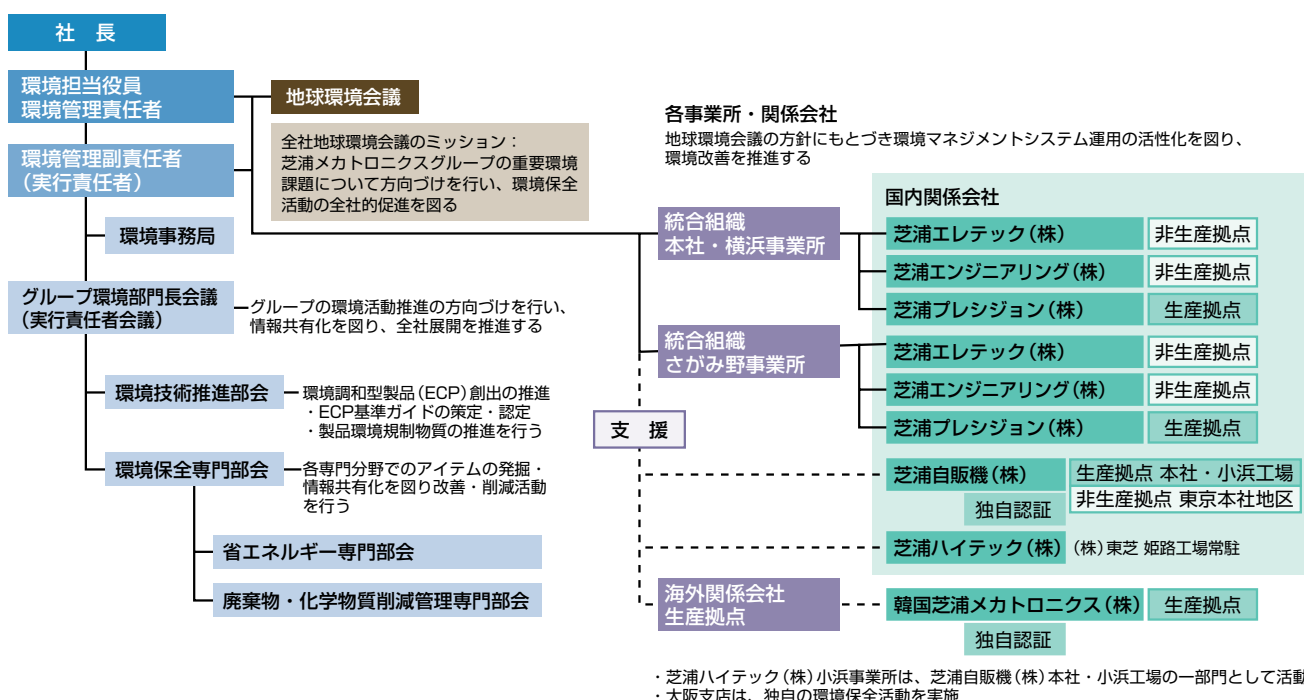
環境経営

環境保全推進体制

生産・調達本部長を当社グループの環境管理責任者とし、生産・調達副部長を環境管理副責任者(実行責任者)と決め、「地球環境会議」で当社グループの環境課題について対応の方向づけを行い、環境保全活動の全社

的促進を図っています。

2007年度からは国内関係会社に海外の生産拠点を含んだ体制を構築し、推進しています。



環境マネジメントシステム

芝浦メカトロニクスとして、本社・横浜事業所、さがみ野事業所のISO14001の統合認証を取得し、さらに両事業所に駐在する関係会社も統合し、環境活動を推進しています。

国内関係会社の芝浦自販機(株)は、独自に環境マネジメントシステムの認証を取得しています。また、芝浦ハイテック(株)は、(株)東芝姫路工場の環境システ

ムの体制に組み込まれています。その結果、国内関係会社すべての生産拠点で、環境マネジメントシステムにもとづいた環境活動を推進しています。

海外の生産拠点では、韓国芝浦メカトロニクス(株)において、すでにISO14001の認証を取得しており、当社グループの生産拠点は、グローバルに、ISO14001の認証を取得しています。

ISO14001認証審査の状況

年度	認証取得	評価					
		2002	2003	2004	2005	2006	2007
本社・横浜事業所	1999年 4月	向上	維持	更新審査	向上	統合審査 統合認証取得	向上
さがみ野事業所	1997年12月	向上	更新審査	向上	向上		

環境目標と実績

事業活動における環境負荷状況

資源の使用量と排出量を定量的に把握し、生産活動における環境負荷状況の改善を推進しています。

2007年度実績

投入		排出		
横浜事業所				
電力使用量	983.5万kWh	▶▶▶▶	CO ₂ 排出量 ^{※1}	4,085.5 t-CO ₂
LPG使用量	2.0t		化学物質排出量	3.7 kg
都市ガス使用量	20.0km ³		排水量	35,834.0 m ³
化学物質取扱量	3.7 kg		総排出物量 ^{※2}	642.2 t
上水使用量	40,171 m ³		└ 再資源化量	641.1 t
			└ 最終処分量	1.1 t
さがみ野事業所				
電力使用量	459.0万kWh	▶▶▶▶	CO ₂ 排出量 ^{※1}	1,344.3 t-CO ₂
LPG使用量	使用なし		NOx排出量	218.9 kg
都市ガス使用量	114.0km ³		化学物質排出量	5.6 kg
化学物質取扱量	7.8 kg		排水量	10,440.0 m ³
上水使用量	12,139.0m ³		総排出物量 ^{※2}	139.2 t
			└ 再資源化量	139.0 t
			└ 最終処分量	0.2 t

※1 電気事業連合会から2006年度に開示されたCO₂換算係数で評価
 ※2 評価実験廃液を含む (P31「総排出物量」の項を参照)

自主行動計画 (ボランタリープラン)

第4次自主行動計画(2010年計画)にもとづき環境負荷低減に向けた施策を展開しています。

第4次自主行動計画 自己評価

項目	指標	
製品系	グリーン調達推進	合意書締結取引先との取引額比率
	環境調和型製品提供	環境調和型製品比率(売上高比率) (環境効率：ファクターベース評価)
事業系	地球温暖化対策	エネルギーCO ₂ 換算 内付加価値生産高原単位 (CO ₂ 排出量原単位)
	総排出物量削減	総排出物量削減
	ゼロエミッション	ゼロエミッション (最終処分量0.5%の継続維持)
	製造工程で使用する化学物質排出量改善	排出量の把握 ^{※4} (PRTR ^{※5} 法+独自の規制物質にもとづく実績把握)
維持管理	遵法	法規制値にもとづく自主基準値の遵守
	情報開示と社会協調	CSR報告書での環境情報開示と地域環境保全活動の拡充

環境への取組み

製造装置メーカーとして、「製品系」と「事業系」との『両輪』で全体効率向上に取り組み、より高いレベルでの環境への取組みを推進しています。基本的な方針は「使わない」「出さない」です。

事業活動を行うための地球資源の使用、地球環境への負荷、そして事業活動の結果として排出される物質の削減を目指しています。

製品系の取組みとして、環境調和型製品(Environmentally Conscious Products=ECP)を世に送りだすことで地球環境の負荷低減に努めています。製品系のもうひとつの取組みは、グリーン調達の推進です。規制物質の削減を推進するため、積極的にグリーン調達を進めている調達取引先との取引を拡大推進しています。

事業系の取組みとして、事業所内で使用するエネルギーにより発生するCO₂排出量の削減を、事業所内内付加価値生産高原単位による削減目標を定め、推進しています。なお、CO₂以外の地球温暖化物質は使用していません。

また、廃棄物については、廃棄物の削減、ゼロエMISSIONの推進、生産工程で使用する化学物質の削減を推進しています。

事業所	基準年度	2007年度			2007年度のまとめと課題	2008年度目標	2010年度目標
		目標	実績	評価			
	2005	80%以上	94.7%	+14.7%	当初の目標値70%以上を期の途中で達成したため80%以上と上方修正しましたが、最終的に94.7%を達成しました。	95%	2009年度に推進目標を見直します
	2000	35%以上	54%	+19%	順調に推移し、目標を達成。より厳しい目標を設定し推進します。	40%	全製品群で50%以上
横浜	1990	24%削減	2%削減	-22%	横浜事業所は新工場の稼働にともない、エネルギー使用量が増加しました。個々の対策や事業所としての改善を推進していきます。横浜事業所の悪化にともない、当社全体の削減も12%にとどまりました。	25%削減	28%削減
さがみ野			41%削減	+17%			
芝浦メカトロニクス			12%削減	-12%			
横浜 ^{※3}	2004	5%削減	10%削減	+5%	横浜事業所は、2007年度から、評価実験廃液を除いた数値で管理しています(P31「総排出物量」の項を参照)。向事業所とも2007年度は目標値を達成しました。	6%削減	10%削減
さがみ野			18.5%削減	+13.5%			
横浜	2006	0.5%以下	0.17%	+0.33%	2003年度に1%以下、2006年度より0.5%以下と目標値を上方修正しましたが、この値も達成しました。	0.5%以下を維持	0.5%以下を維持
さがみ野			0.14%	+0.36%			
横浜	2006	PRTR法規制値の1/10	3.7kg	問題なし	2007年度は2006年度の実績をふまえ、より厳しい自主基準値を設定しました。今後もこの自主基準値を維持していきます。	PRTR法規制値の1/10	自主基準値維持
さがみ野			5.6kg				
横浜	—	自主基準値の遵守	オーバー“0”	問題なし	自主基準値を維持していきます。	自主基準値維持	自主基準値維持
さがみ野							
	2001	継続	2008年6月発行予定	継続	積極的に情報を開示。	継続	継続

※3 評価実験廃液を除いた数値で評価
 ※4 製造工程で使用する化学物質については、PRTR法を基準に排出量の実績を把握
 ※5 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) … 化学物質排出移動量届出制度

環境調和型製品

当社グループは製品系の取組みとして、環境調和型製品(Environmentally Conscious Products=ECP)を世に送り出すことで地球環境の負荷低減に努めています。ECPの創出においては、製品のライフサイクル(製品の材料調達、製造、輸送、使用、廃棄にいたる一連の工程)全体から環境負荷をとらえています。ライフサイクルで発生する環境負荷は、その企画・設計段階での取組みが大きく影響します。当社では2005年度より製品価値と環境への影響を総合的に評価する指標として「ファクター」という考え方を取り入れ、製品ごとにこれを数値化した「ファク

ター値」をもって、製品の環境適合度・改善度を評価しています。

ファクター値は、評価年製品の環境効率を基準年製品の環境効率で割ったものです。環境効率とは、製品の価値を製品の環境影響で割ったもので、ファクター値の数値が大きいほど評価製品の環境効率が優れています。このファクター値が1.5以上の製品をECPと認定し、この値が2.0以上に評価された製品を特にEX-ECP[※](Excellent ECP)と認定しています。

当社は総売上高に対する環境調和型製品の売上高比率を2010年度には50%にする目標で取り組んでいます。

※ Ex-ECP(Excellent Environmentally Conscious Products)… 優秀環境調和型製品

特集

環境調和型製品の事例

■ダイボンダ

価値改善

高速化 従来機種よりタクトタイムを最大50%短縮

高精度 精度を1.7倍に向上

環境改善

温暖化防止 消費電力を56%削減

資源有効活用 コンパクト設計などで、設置床面積を27%削減

新製品 (2007年)

ファクター値
3.45



従来製品 (2002年)

半導体製造工程で使用されるECP ダイボンダ

ダイボンダは半導体を製造する工程の中で基板にICチップを接合する装置です。最近ではフラッシュメモリなどでのメモリ容量アップが急速に進んでおり、高速・高精度の装置が求められています。また、クリーンルーム内で使用される装置であり省スペー

ス化も必要です。高速化実現のため、チップ移送距離の最短化と各ユニットの動作パターンを見直しました。次に、ボンディング精度の向上を図るため、振動低減を実施し、高画素カメラを新たに採用することにより、画像処理精度が向上し高精度化を実現しました。さらに、各ユニットの小型化、省配線システムを採用することで、装置を小型化し、省スペース化を実現しました。

事業活動での環境への取組み

事業活動を拡大しつつ、環境負荷低減を目指した環境改善活動を進めています。

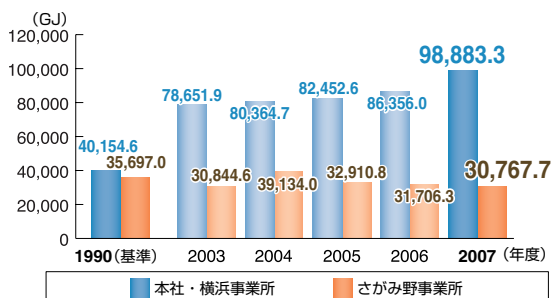
付加価値生産高CO₂原単位は、当社グループにおける付加価値生産高あたりの当社グループ内で使われた総エネルギー量を示すものです。この指標をもとに排出量削減を推進しています。

投入

エネルギー熱量換算使用量(GJ※)

使用している主なエネルギーは電力・都市ガスです。それぞれの使用量を熱量で換算しました。

横浜事業所は、新工場の稼働が影響して、エネルギー使用量が増加しています。

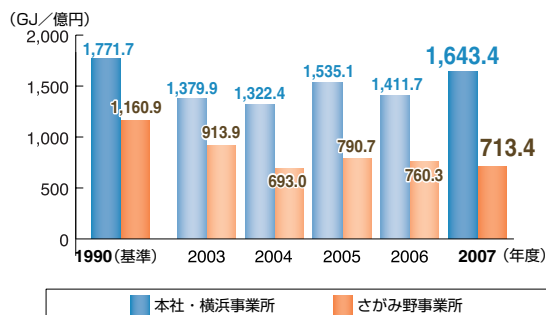


※ GJ … ギガジュール

エネルギー熱量換算内部付加価値生産高原単位 (GJ/億円)

熱エネルギーに換算した値を内部付加価値生産高当たりで、原単位を求めました。

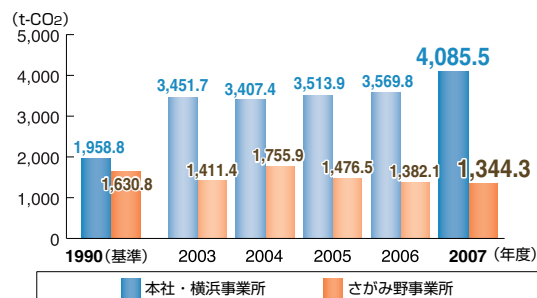
横浜事業所は、基準年(1990年度)に対し減少していますが、対前年度と比較した場合は増加しています。



排出

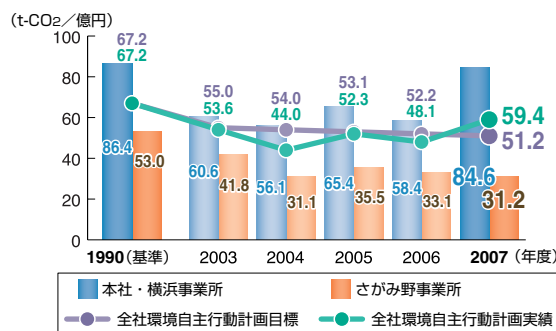
エネルギーCO₂換算排出量(t-CO₂)

使用しているエネルギーをCO₂に換算し排出量を算出しています。



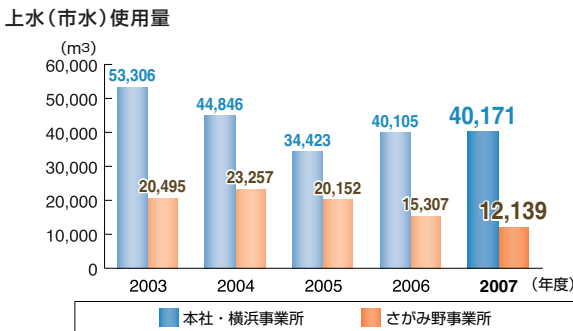
エネルギーCO₂換算内部付加価値生産高原単位排出量 (t-CO₂/億円)

横浜事業所では、新工場稼働の影響で、2007年度の内部付加価値生産高原単位は前年度より増加しました。



上水(市水)使用量

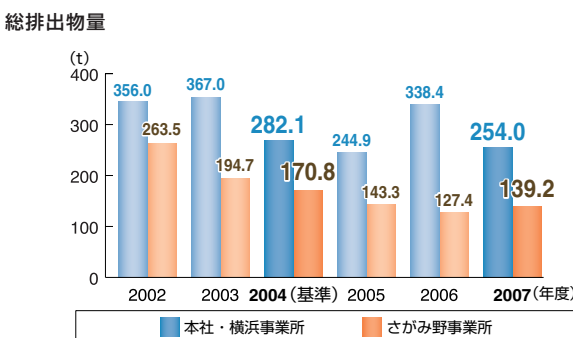
当社横浜事業所では半導体・液晶基板製造装置のウェットプロセスの製造過程にて多量の水を使用します。2005年度までは、様々な工夫で使用量を減少させてきましたが、2006年度から2007年度にかけては生産高、研究開発実験が増えたため、水の使用量が増加しました。



総排出物量

2006年度までは、本社・横浜事業所の総排出物量として、お客様から依頼された評価実験の際に発生する廃液を含んでいました。この評価実験廃液は、お客様が期待する評価結果を得るためお客様の指示のもと繰り返し行われる実験で発生したため、当社による量の管理は困難でした。今回、2007年度からは、この評価実験廃液を削減目標の対象からはずし、管理可能項目に絞り込みました。但しこれらの廃液などは総量として把握しています。

横浜事業所では、2003年度から2005年度にかけて減少しました。2006年度は新型装置の実験・製造が続き、総排出物量が増加しましたが、2007年度は再び減少に転じています。

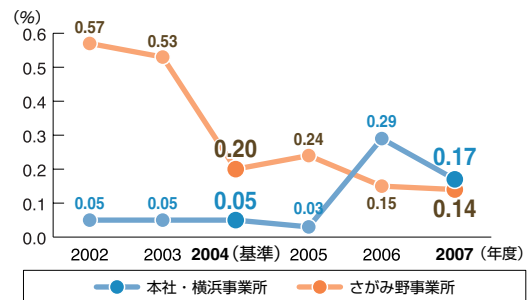


さがみ野事業所では、2007年度に前年度より増加していますが、これは事業所内の大幅なレイアウト変更にともない一般ゴミが発生したためです。なお、さがみ野事業所では、評価実験廃液は発生しません。

ゼロエミッション

ゼロエミッションについては、2003年度の計画当初は1%以下、2006年度より0.5%以下と上方修正しました。今後は、維持管理項目として維持に努めます。

横浜事業所は2006年度から2007年度にかけて大幅に増加していますが、これは総排出物量の増加にともなったものです。

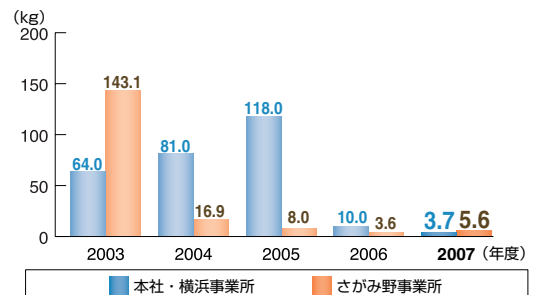


化学物質削減

PRTR^{※1}法対象物質の取扱量に独自の規制物質を追加し、評価しています。

横浜事業所において2003年度から2004年度にかけて大幅に減少しているのは、装置製造工程において塗装工程がなくなったためです。今後は、2007年度実績値を維持していきます。

化学物質排出量



※1 PRTR (Pollutant Release and Transfer Register) 化学物質排出移動量届出制度

環境改善への取組み

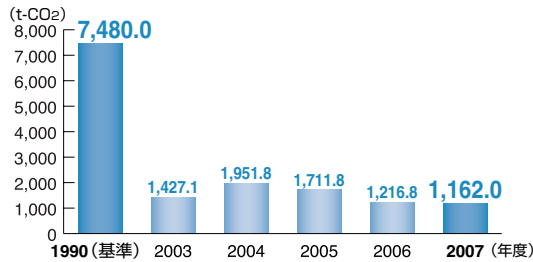
事業活動における環境負荷状況

<芝浦自販機(株)本社・小浜工場のデータ>

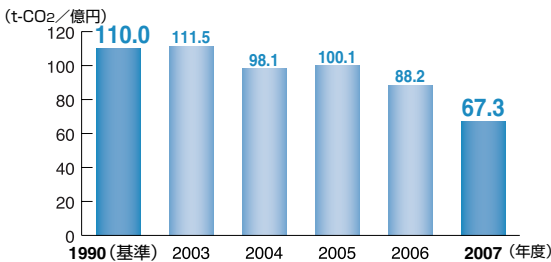
芝浦自販機(株)本社・小浜工場は、独自の環境マネジメントシステムの運用を行なっています。基準年度である1990年当時は、自販機のほかに小型モータ、電動工具などを生産していましたが、1998年に別会社に事業移管したため、エネルギー排出量は大幅に減少しました。

資源の使用量と排出量を定量的に把握し、生産活動における環境負荷状況の改善を推進しています。

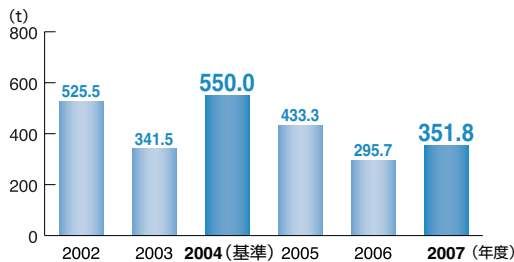
エネルギーCO₂換算排出量



エネルギーCO₂換算内部付加価値生産高原単位排出量



総排出物量

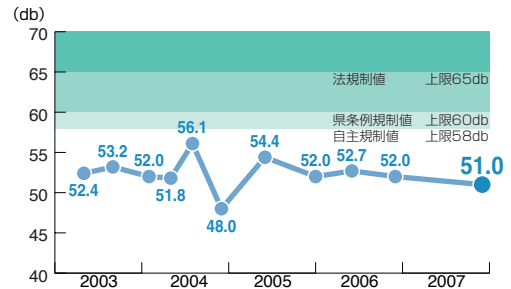


環境関連法の遵守

◇遵法

法令より厳しい自主基準値を設け独自に確認・評価し、異常が発生した場合の体制を構築しています。

さがみ野事業所の騒音(夕方)



環境法令

	横浜事業所	さがみ野事業所	評価
大気汚染防止法	非該当	該当	自主基準値以下
水質汚濁防止法	該当	非該当	自主基準値以下
下水道法	該当	非該当	自主基準値以下
騒音規制法	該当	該当	自主基準値以下
振動規制法	該当	該当	自主基準値以下

報告・届出関連

	横浜事業所	さがみ野事業所	評価
省エネルギー法	第2種に該当	非該当	1回/年報告
PRTR	非対象 ^{※2}	非対象 ^{※2}	基準値以下
PCB廃棄物特別措置法	該当	該当	1回/年届出

※2 PRTRに該当しますが基準値以下のため非対象となります。

第3回 芝浦メカトロニクスグループ環境展

従業員一人ひとりの環境意識を高めることを目的に、製品の環境負荷の低減を図った成果と資源循環型社会に向けた当社グループの様々な日常取組みの成果をパネル展示しました。「使わない」「出さない」を基本とする環境活動を従業員へアピールしました。



環境展の展示パネル

各事業所での環境改善報告

事業所共通

まだ使える用度品類を対象に、3R推進月間において本社・横浜事業所、さがみ野事業所内でリユースコーナーを開設しました。事業所相互間でリユース品を提供し合い、資源のムダ使いを減らす活動を実施しました。



本社・横浜事業所



さがみ野事業所

また、リユースコーナーの利用者には、「かながわトラストみどり基金」への募金を呼びかけ、環境活動における地域への貢献と緑の大切さをアピールしました。

かながわトラストみどり基金
寄付番号台紙登録証書



横浜事業所

<執務室での空調機一時停止運動>

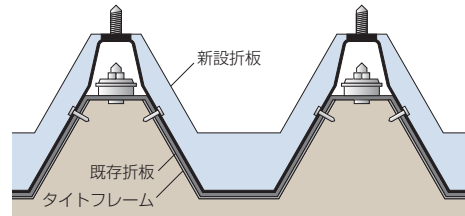
冬季において、事務所内空調機の運転を10:00から15:00まで一時停止する運動を実施しています。



空調機停止の表示板

<屋上の遮熱・断熱対策工事実施>

屋根の耐用年数経過にともない、遮熱・断熱対策の工事として屋根の二重化工事を実施しました。



屋根の遮熱・断熱構造断面

さがみ野事業所

受付ロビーにハイブリッドファンを4個取り付け、空調機から送られる風をファンにより攪拌し、直接の風当たりを防ぐとともに、室内温度の均一化を図りました。



ハイブリッドファン

トイレの手洗い用水栓を自動水栓化し、一層の節水を図りました。

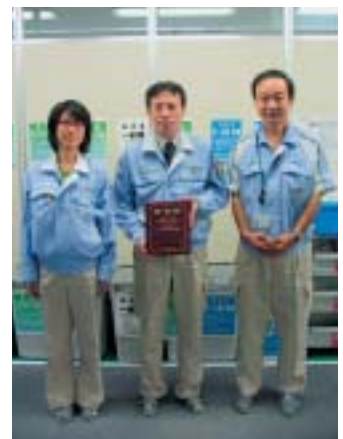


自動水栓

横浜環境行動賞

さまざまな環境行動を行い、ごみの減量に功労のあった個人や団体に横浜市から贈られる「横浜環境行動賞」事業者部門・「分別優良事業所(分別三つ星事業所)」に横浜事業所が選ばれ、11月4日に表彰されました。分別優良事業所の認定は、毎年更新されます。

今後はさらに環境行動を徹底し、排出量自体を減らし、毎年認定されるよう環境行動を続けていく考えです。



横浜環境行動賞受賞

本報告書では、モノづくりメーカーの「人が活きるCSR」への取り組みが述べられています。また、特集では、「中国でのビジネスと地域社会とのかかわり」が取り上げられています。そこでは、事業活動やサービス体制の特徴が紹介されるとともに、地域社会とのかかわりを重視し、中国の従業員がいきいきと働けるように、研修制度や語学研修に対する支援が行われていることが述べられています。「従業員とのかかわり」の部分では、2007年4月に障がい者法定雇用率を達成し、ジョブコーチの活用など、現場での支援についても具体的に記載されています。「ワーク・ライフ・バランス」が求められる中、労働時間の短縮や「仕事と育児の両立」を支援する取り組みも紹介されています。従業員の心身の健康を保持する産業医からのコメントが掲載され、「人を活かす」姿勢が感じられます。昨年の報告書に比べ、働いている人の側面が多く掲載され、「人が活きるCSR」の取り組みが一貫して理解できるようになっていると思います。

CSアンケートやリスク情報報告件数の部分では、昨年までの数字のみの記載から、グラフによる表示へ記載方法が変更され、より見やすくなりました。昨年のCSR報告書の中で韓国芝浦メカトロニクスからの研修生受入について記載されていましたが、今回の報告書では、実際に体験した研修生のコメントを掲載しています。研修中の経験により、多様性のある会社であることを実感されたようです。単に就業形態の多様性ばかりでなく、働く人の多様性を尊重することは、グローバル企業にとってますます重要になります。また、2008年4月から「高齢者の医療の確保に関する法律」によりメタボリックシンドロームへの対応が求められることを受け、生活習慣病への啓蒙やその予防・改善を図るための取り組みがすでに行われていることが紹介されています。企業の外部環境の変化を注視し、事前に対応することは、CSRの取り組みにおいて、とても重要なことであると思います。

昨年のCSR報告書において、社会性報告においても、「社会性目標と実績」というような形で、全般的に具体的な

第三者意見

明治大学商学部
教授 出見世 信之 氏



目標を掲げ、個別の目標の達成状況について実績を検証することが求められるとしましたが、本報告書においては、社会性に関する「目標と実績」として一覧表が掲載されています。残念ながら、すべての項目で達成という評価になったわけではないようですが、一部達成にとどまっている地球温暖化対策の項目についても、環境目標と実績の部分で原因が明記されており、今後の改善が期待されることです。このように、今回も、昨年同様に、CSR報告書を作成するに当たり、地道な改善活動を続けられています。この点は、高く評価できると思います。3回目の第三者意見を述べるものからみると、こうした継続的な地道な努力を確認できたことは喜ばしい限りです。

なお、今回の第三者意見の執筆に当たっては、担当の方から報告書の概要について直接説明を受け、その場で質疑も行いました。こうした形では、各種ステークホルダーとの対話を意味する「ステークホルダー・ダイアログ」と呼ぶことはできないかもしれません。しかしながら、企業を構成する従業員や取引先、さらには顧客以外の、普段は企業と接する機会のない人たちとの交流により、今までには見えなかった事柄が見えてくると思います。一般の人の手に直接届くような製品を作っていないことを念頭に置いて、意識的にそうした方向でのコミュニケーションの充実を今後も継続してほしいと思います。そうすることが社会の要請の変化に迅速に対応することを可能にします。次回の報告書においては、地域社会からの声を掲載するののも一つの方法だと思います。モノ作りメーカーとして、今後も「人が活きるCSR」を継続されることを願っております。

第三者意見を受けて

芝浦メカトロニクスグループが進めている「モノづくりメーカーとしてのCSR、人が活きるCSR」の内容を、多くの方に知っていただきたいと考え、できるだけわかりやすくその活動内容を報告書としてまとめました。

明治大学の出見世教授には、今年で3年連続第三者意見をお願いし、貴重なご意見・ご指摘をいただいておりますが、今回は「普段は企業と接する機会のない人たちとの交流」の重要性等のご指摘をいただきました。今後、地域住民の方々など日頃接することが少ないステークホルダーとのコミュニケーションを図ってまいりたいと思います。

昨年の報告書に対して一般の読者の方々からも貴重なご意見をいただきました。ここにお礼を申し上げるとともに、今回の報告書に対しても、忌憚のないご感想・ご意見等をお寄せくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

芝浦メカトロニクス株式会社

〒247-8610 神奈川県横浜市栄区笠間2-5-1

お問い合わせ先
経営企画部 広報室

TEL 045-897-2425
FAX 045-897-2470
e-mail s-koho@shibaura.co.jp
URL <http://www.shibaura.co.jp/>



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を本文用紙に使用しています。



環境に優しい大豆油インキを使用しています。

